

令和元年度 第 2 回教育委員会定例会
議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第11号 平成31年度『垂水市の教育』 基本方針について	平成 31 年度『垂水市の教育』基本方針について、教育長の臨時代理により一部修正したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第12号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について	垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 委嘱期間：平成 31 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで。	特記事項なし	
報告第13号 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議設置規程の一部改正について	燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議設置規程の一部改正について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第14号 令和元年度垂水市一般会計補正予算（第 1 号）案についての市長への意見申出について	令和元年度垂水市一般会計補正予算（第 1 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第10号 平成 31 年度垂水市奨学資金奨学生の決定について	奨学生選考委員会の答申を受けて奨学生の決定をしようとするものである。		
			承 認

議案第11号 垂水市奨学資金条例施行規則の一部改正について	垂水市奨学資金条例施行規則の一部を改正しようとするものである。		承認
--	--	--	-----------

令和元年度第 2 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
令和元年 5 月 9 日（木） 午後 3 時 0 0 分 ↓ 午後 4 時 5 0 分 第 2 研修室	教 育 長 坂 元 裕 人 教育委員長 野 村 繼 治 教 育 委 員 田 原 正 人 教 育 委 員 葛 迫 幸 平 教 育 委 員 田之上 厚 美	教育総務課長 紺 屋 昭 男 学校教育課長 明 石 浩 久 社会教育課長 野 嶋 正 人 国体推進課長 米 田 昭 嗣

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和元年度第2回教育委員会定例会を開会した。
議案第10号および議案第11号は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成31年度第1回教育委員会定例会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第11号 平成31年度『垂水市の教育』基本方針について

報告第12号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について

報告第13号 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議設置規程の一部改正について

報告第14号 令和元年度垂水市一般会計補正予算（第1号）案についての市長への意見申出について

議案第10号 平成31年度垂水市奨学資金奨学生の決定について

議案第11号 垂水市奨学資金条例施行規則の一部改正について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第 11 号
社会教育課長	平成 31 年度『垂水市の教育』基本方針について 『垂水市の教育』基本方針について、教育長の臨時代理により一部修正したこと、及びその内容について報告。 (質疑なし)
社会教育課長	報告第 12 号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について 垂水市視聴覚ライブラリー委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告。
野村委員	異動等の欠員に伴う人選であるとのことだが、他の学校も決まっているのか。
社会教育課長	学校には、視聴覚部会的な担当者がいらっしゃるが、その方々の代表として選出されているものだ。
野村委員	この学校が担当校であるということか。
社会教育課長	そのとおりだ。
野村委員	わかった。
教育長	保育園、幼稚園の子どもたちが、16 ミリフィルム映写を市民館でよく見ているのは承知しているが、小学校でも映写はあるのか。
社会教育課長	小学生も保育園、幼稚園時代に保護者とともに見ている。真っ暗な中で映像を観るということは、学校ではなかなかないため、家庭教育学級等で保護者の方から、学校での映写を求められることがある。
教育長	わかった。
葛迫委員	視聴覚ライブラリーというのは 16 ミリ映写機だけなのか。今の時代は CD などで情報などを収集しているが、昔の 8 ミリフィルムみたいなものをいまだに使って行っていることが、不思議に思うがどうなのか。
社会教育課	市民館の 2 階に上がってくる階段の近くに、視聴覚ライブラリーの教材の棚がある。その中には DVD やブルーレイの教材も準備してあり、もちろん 16 ミリも準備してある。小・中学校の利用はほとんどない。学校においては、その教科など目的にあったものを揃えているため利用はないが、社会教育団体や個人・団体、公民館等の高齢者学級等で活用されている。なお、ブルーレイの機器やプロジェクターも貸出しをしているところだ。

野村委員	機器も古くなるが、16ミリフィルムを新たに現代の機器に対応するよう変換するということがあるのか。
社会教育課長	例えば、ある映像作品が16ミリフィルムであったとした場合、購入費用は1本10万円ぐらいするが、同じ内容のDVDがあったとすると市販では3千円ぐらいで購入できる。しかし、著作権上で多くの方に見せることはできないため、視聴覚ライブラリーで映写する場合は10万円で購入しなければならないものだ。したがって、映写する場合は現代の機器に変換する場合も、それなりの費用がかかる。 16ミリ映写については真っ暗な中で、小さな光で映像が動くことが、子どもたちにとっては、不思議で、わくわく・ドキドキしながら見る貴重な体験であるため、毎月利用がある。
野村委員	わかった。
葛迫委員	フィルムのカビや虫食いなどはないか。
社会教育課長	乾燥防止などの手入れをしているためない。
葛迫委員	わかった。
国体推進課長	報告第13号 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議設置規程の一部改正について 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議設置規程の一部改正について、教育長の臨時代理により一部改正をしたこと及びその内容について報告。 (質疑なし)
社会教育課長	報告第14号 令和元年度垂水市一般会計補正予算（第1号）案についての市長への意見申出について 補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告。
社会教育課長	社会教育課所管分の補正予算内容を説明。
国体推進課長	社会教育課所管分の補正予算内容を説明。
教育総務課長	教育総務課所管分の補正予算内容を説明。
学校教育課長	学校教育課所管分の補正予算内容を説明。
野村委員	英語検定補助金は予定される人数分を確保しているのか。

学校教育課長	昨年の実績ベースで計上しているもので、検定についてはそれぞれの級によって金額が変わるが、対応できる予算を計上したものである。
野村委員	わかった。 議案第 10 号 平成31年度垂水市奨学資金奨学生の決定について (非公開) 議案第 11 号 垂水市奨学資金条例施行規則の一部改正について (非公開)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	1. 「平成31年度鹿児島県教育行政説明会について」 4月15日(月)、県教育行政説明会に出席した。出席された皆様、大変ご苦勞様でした。今年は心なしか各課長の皆さんが説明を工夫されていたように感じた。 毎回、分刻みで総花的な感じもするが、その重点は県教育委員会と市町村教育委員会の、スムーズな連携を図るという大変重要な伝達説明会である。 資料が膨大であるため、すべてを読み取ることは至難のことであるが、県教育行政の全てが網羅されているため、その時、その時の必要に応じて活用していけたらと思う。 必要に応じてという点で、一つだけ気になることもあった。 それは義務教育課から「全国学力・学習状況調査の鹿児島学習定着度調査につながる「学力向上対策について」の話であった。 まずその一は、「結果、数字にこだわること」と題されて、結果は「必要な学力が定着していない。」というリアルな証拠である。これは危機感の欠如がその原因と言わざるを得ないことや、学力調査に対する意識の欠如があると考えられる。よって、各市町村全体で「全国平均」以上の結果となるように意図的、計画的に戦略的な取組を遂行すること。

	その二は、『『全校平均』の意味を理解すること』と題されて、全国どの学校もそれぞれの課題を抱えている中、すべての学校が同じ条件で調査を受けたものであり、よって全国平均よりマイナス10、マイナス15ポイントというのは許されるのかということ。 その三は、「市町村教育委員会の役割」と題されて、「研修して自己満足」ではだめだ。「問題が解けるようになること。」が一つのゴールであるということ。 本県は、「練習が足りない」、「練習させないまま本番」というきらいがあり、市町村教育委員会に実践していただきたいことは、現状を正確に把握し、支援（研修会や演習問題の配布）を行い、見届けを確実に行うことである。 学習定着度調査の結果が急激に上昇した市町村は、「教育委員会や学校が本気になり一生懸命取り組んだ。」その結果であるというなどの話があった。
田原委員	1. 「4月から5月の連休について」 4月、多くの児童生徒が学校生活にしっかりと馴染めないうちに10連休を迎えたので、連休明けが辛いのではないかと心配である。 また、全国では高齢者の車が登校中の児童や園児の列に突っ込み、事故を起こしている例も多い。4月は、通学に慣れない新入生のために集団登校や、春の全国交通安全運動の見守り隊などがガードしている。5月からは通学などに慣れてきて一人で動き回るので、逆に事故が多いと聞く。私たち水之上公民館も、この隙間になりがちな5月に、あいさつ運動を兼ねた見守り活動をしたいと考えている。 2. 「県教育行政説明会について」 4月15日(月)、県教育行政説明会に出席した。朝から終業時まで、びっしりのスケジュールで、各課担当者が入れ替わり立ち代わりでの説明を受けた。 その中で、義務教育課から、「全国学力検査の結果が、ビリから2番目です。ここに甘んじて何もしないでいたら永遠に這い上がれません。現場の先生方一人ひとりが、この現実を受止め、危機感を持って取り組んでほしい。」と悲壮感のこもった話が印象的だった。 これまでの学力向上の対策は出尽くしていると思う。ただ、毎年対象の児童生徒が替わるので一律にはいかない。それらのひとつひとつを自分の学校の実態に当てはめて、どう具体的に実践して継続しているかということであろう。 来月から学校訪問が始まるので、学力向上策を詳しく質問して、その学校にあった取組がなされているのかを確認してみたいと思う。
葛迫委員	1. 「2020年かごしま国体について」 2020年かごしま国体に向けて、4月15日(月)の県教育行政説明会では本年度の茨城国体、来年のかごしま国体に向けた取組や、強化方針が説明さ

れ、国体開催の準備が整ってきたと感じられた。

また、県民の気運醸成や記憶に残る取組として炬火(きょか)リレーが実施されるとのことで、県民が一つになってことを起こしていく過程が見られることなど、かごしま国体が非常に楽しみに思えた。

来年のかごしま国体では、垂水市はフェンシング競技が開催される予定で、4月28日(日)には、茨城国体「フェンシング競技」の鹿児島県一次予選大会が垂水中央運動公園体育館で開催されたので覗いてみた。

私自身、フェンシング競技については、実際に見たこともなく、経験したこともなく、知識もなく、よく分からないというのが現状で、今回初めて公式の競技を見る機会を得た。

試合会場となる市体育館の外観や館内の改装は、天井部分が一段と明るくなり、またカーテンも新調され、外からの光も漏れず一定した明るさになっていた。これから床の張替が行われるとのことで、その工事が終わると、「垂水市でも国体準備が整ってきた。」と実感することだろう。

フェンシング競技は、フルーレ、エペ、サーブルの3種目からなっていると聞いたが、今回の種目は、少年男子フルーレ、少年女子フルーレのフルーレ種目のみの試合であったが、フルーレ種目は、剣を突く有効面が胴体のみと聞いていたが、実際の試合では、選手のスピードが速すぎて、どこを突いているのか分からない速さだった。特に強化選手のスピードは他を圧倒し、1回戦, 2回戦の試合はあっという間に勝負がついていた。

試合時間と勝負の決まり事は、3分間で5ポイントした選手が勝利。3分経過した場合ポイントの多いほうが勝利するという試合規則だった。

緑色や赤色のランプが点くと、剣が有効面を突いたことになり、白色のランプが点くと有効面を突いていないということだった。

初めてフェンシング競技を観戦して感じたことは、しなやかで綺麗で上品な競技であり、試合結果に間違いがない(有効面を突くということを目視だけでなく電気の力で確認する。そこにポイントされる。)ことにも、競技の上品さがうかがえた。

子どもたちや大人たち、垂水市民全体がフェンシング競技のことを知ること、そして興味を持つことが大切だと思った。素晴らしい「かごしま国体」になることを期待したい。

田之上委員

1. 「垂水市転入教職員宣誓式について」

4月12日(金)、本市においていただいた先生方の宣誓式が、厳粛な雰囲気の中で行われた。先生方におかれては、健康に留意され、垂水の子どもたちに力を尽くしていただくとともに、垂水の名所やおいしいものを堪能していただき、垂水を大好きになってほしいと思うことだった。

2. 「鹿児島県教育行政説明会に参加したことについて」

4月15日(月)、鹿児島県教育行政説明会に参加させていただいた。各課が施策方針や事業についての説明があった。

一人一人に寄り添うのは難しいことだが、教育委員会、学校、行政が連携して、子どもたちのための様々な取組を、よろしくお願いしたいと思った。

教育長	3. 「フェンシング国体一次予選を参観したことについて」 4月28日(日)、初めて、生でフェンシングを観た。高校生の堂々とした熱い戦いと、礼儀正しい態度に感銘を受けた。 日の丸をつけたユニフォームを着用している生徒もいて、動きなど、ひととき俊敏な様子がみられた。 身近に素晴らしい選手がいると、他の生徒にも良い影響を与えるのではないかと思いながら、選手みんなに応援をさせていただいた。 1. 「ゴールデンウィークが終わってみて思ったことについて」 4月がスタートして1か月が過ぎようとした中、うち10日間連続の休みがあった。そのような中、学級づくりがきちっとできているのかと思う。そのことによって、不登校や問題行動に繋がっていくのではと思い、ゴールデンウィーク明けの対応を危惧するところである。 また、今の時期、体調を崩している子どももあり、季節の変化、寒暖の差が激しく、今後、熱中症等も出てくることも予想されることから、先手先手で、子どもたちの安全管理や安全指導も行っていかなくてならないと思っている。子どもたちが生活のリズムを整えながら、先ずは今週を無事に乗り切っていってほしいと思う。 さて、ゴールデンウィーク期間中は教育委員を始め、学校関係者には、フェンシング競技鹿児島県一次予選を観戦いただき感謝を申し上げる。 まずは、競技を見ていただく、実感していただくことが一番であると思っている。今後、さらに気運の醸成を図っていききたいと思う。 5月1日(水)、道の駅たるみずはまびらにある、「マリnparkたるみず」のオープン式典に出席した。 あいにくの雨ではあったが、多くの方々が参列され、デモンstrationも行われた。そういう中で感じたのは、マリnparkたるみずがマリンスポーツの大隅地区の発信拠点として広く周知されればよいと思うとともに、一番は安心・安全だと感じた。 5月3日(金)、4日(土)は、たるみずカンパチ祭りが海潟漁港で開催され、オープニングでは垂水小学校金管バンドが演奏し、頑張っていると思った。このことも地域貢献であると思うとともに、子どもたちだけでなく、学校職員が来て楽器運搬や子どもたちへの励ましなど行っていることに、よい雰囲気できていることと、指揮者の女性教諭を支えてくれる周りの先生方など応援団がいることで、よい活動ができているのだと感じた。 また、地元の協和小学校児童の作品展示など新たな取組もあり、新鮮さを感じ、会場に子どもたちの作品などがあるのはよいことだと思った。 5月5日(日)は、「鯉のつかみどり大会」を見に行った。 この催しは30年以上続く伝統行事で、本城川好友会主催であり、子どもたちの楽しく、はしゃぐ姿は、改めて大人の元気の源であると感じた。 ゴールデンウィーク期間中、子どもたちが楽しく安全に過ごせたことがよかったと思うとともに、学校とも連携し、連休明けの子どもたちの様子に気をつけていかなければならない。
-----	--

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

4月10日から5月9日までの主な行事等について報告。
併せて、6月10日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会